

## 令和7年度の上川支部活動報告

### 1 活動報告 (R6年度)

- 4月27日 北海道学校体育研究連盟総会(事務局長 瀬戸 参加)
- 5月11日 令和6年度上川管内学校体育研究会総会
- 7月26日 第36回上川管内学校体育研究大会北部大会(土別大会)指導案検討
- 9月4日 第36回上川管内学校体育研究大会北部大会(土別大会)指導案検討
- 9月20日 第36回上川管内学校体育研究大会北部大会(土別大会)第1回実行委員会兼指導案検討
- 11月8日 第36回上川管内学校体育研究大会北部大会
- R7 1月10日 第34回三者研修会

### 2 活動振り返り

#### ①第36回 上川管内学校体育研究大会

日時 令和6年11月8日(金)

授業者 土別市立土別小学校 柏倉 崇志 教諭

土別市立土別南中学校 杉本 匡矢 教諭

助言者 旭川教育大学旭川校 高瀬 淳也 教授

良かった点○ 改善点● アンケート結果から

小学校 体育エキスパート教員による「鉄棒運動とマット運動」

【組み合わせ単元による学習効果を高めるための意図的な単元構成による生徒の技能習得を目指す授業】

○子どもたちの技能の高まりは見られた ○子どもたちの学習規律がとても勉強になった

○即時フィードバックはよかった●1人1人の評価への具体性がかけていたのではない

**課題：1単位時間での子どもたちの課題把握、克服、自己調整、粘り強さにつながっていなかった**

**トレーニング的になってしまっていたのではない**

中学校 中学校体育授業実践スペシャリストTT「球技 ベースボール型 屋内」

教材・教具を工夫し、天候に左右されない屋内ベースボール

○教材・教具、ルールの工夫で安全面にも配慮されていてよかった ○男女混合でいろいろ配慮があってよかった ○環境づくりが参考になった ○課題把握を映像を使って伝えていてよかった●守備の考えの時間が、打つ方に考えがいつてしまっていた ●もっと求められるものがあったのではない

●あれだけ技能が高まっていたのであれば、ゲーム時間を増やし、ゲーム中の間の作戦タイムもあつたらよかったのではない ●運動に関する思考判断表現以外の部分はどのように評価しているのか

**課題：生徒の実態に合った単元構想の計画・指導内容の精査**

**1単位時間での何を学び、身につけるのか生徒の思考の修正・気づかせ、手立てのタイミング**

「学習効果を高めるための意図的な時間配分」「伝える知識と気付かせる知識の区別」

視点1 できて達成感 が得られる教材の工夫

視点2 わかって達成感 を得られる学習過程

視点3 支え合い、わかり合い、つながることで達成感

**1単位時間で、なにをどのように学ぶのか、なにを身に付けさせたいのかを明確なビジョンが必要**

**単元構想図の考え方の共通認識**

**指導要領の読み解きの共通認識 思考判断表現 主体的な態度の指導事項の確認**

**小・中のつながり 準備運動の方法の共有(主運動につながる)**

**※今後の大会開催へ向けて、小学校、中学校の研究部会に分けて指導案検討の実施 4年のまとまりの系統性に分けた検討**

**上川の方向性の共通認識を作っていく**



## ◆北海道教育大学旭川校 教授 高瀬淳也様 からのご教授

【主体的・対話的で深い学びに向けて】

- ・子どもの主体的な学習を促すためには、教える側の教師の持つ到達目標を学ぶ側の子どもが自覚し、自分の学習目標に転化する必要がある。

⇒ 導入部分の学習課題・発問の充実。・学習内容、ゴールの姿、活動の方向付けを明確にして学習の見通しを持たせる。  
(板書を効果的に活用) → 学習意欲の向上

- ・「解決しなければいけない問題」よりも「**解決したい問題**」に！教師は、子どもが「解決したい問題」を提示することが必要。問いを繋ぐ学びを行う必要がある。「なに?」「どうして?」という問いから「〇〇だと思う。」「〇〇だった。」という気付きに繋がり、気付きの実行と思考を繰り返すことで主体的・対話的で深い学びとなる。思考の展開・つながりのために教師が大きく関わることのできる「導入場面」が重要である。

【今後さらに学習を深めるために】

- ・**導入場面の工夫**(児童が主体的に取り組みたいと思う課題の提示、しかけのある準備運動など)で児童生徒の意欲を高める。
- ・教師が多く個々の児童生徒に関わり、声を掛けること、児童の思考を揺さぶる発問が大切。
- ・全体で解決したい課題を再確認しゴールに向かうことで意欲をさらに高めまる。

## ◆北海道教育庁学校教育局健康・体育課 主任指導主事 田中貴博様

【現在の教育の動向(傾向と課題等について)】

○前文と総則のコンセプトは優れており、現在においても概ね妥当である。

- ・「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだ児童生徒は、社会的経済的背景が低い状況にあっても、各教科の正当率が高い、自己有用感が高いといった傾向にある。
- ・知識の概念としての理解や、自分の考えや根拠等を説明するといった「思考力、判断力、表現力等」の育成には課題も見られる。
- ・学ぶ意義を十分に見いだせずに、主体的に学びに向かうことができていない子供が増加している。

⇒ 今後数年間は、現行学習指導要領の趣旨を踏まえた授業作り・授業実践を通して、児童生徒の3つの資質・能力をバランスよく育成していくことが求められている。

【上川管内学校体育研究会のよさ踏まえた体育科・保健体育科の授業づくりについてのご助言】

- ・小学校から高等学校までの12年間の系統性、発達の段階を踏まえて、4年ごとのまとまりで指導内容を体系化。

- |   |
|---|
| ①各種の運動の基礎を培う時期(1~4年生)                   |
| ②多くの領域の学習を経験する時期(小学5年生~中学2年生)           |
| ③卒業後も運動やスポーツに多様な形で関わるようにする時期(中学3年~高校3年) |

上記のことを踏まえて、12年間を見通して3つの資質・能力をバランスよく育成するためには、発達の段階に応じた指導内容を着実に指導することが重要。

⇒ 「上川スタイル」の確立を考える。よい体育授業をめざして。

### 「上(神)スタ」の構築

ねらい：共通認識 よい体育授業を目指して！

やり方ではなく、在り方を大切に意識をみんなで！

だけどまずはやり方を！形だけでもやっていこう！

以下の内容を実際に授業で子どもの姿として現すためには、どのように教師がはたらきかけるとよいかを考えてみる。そして1つでも意識して自分で実践してみる。その繰り返しが、よい授業につながっていく！

以下の内容は3者研修会の参加者から項目ごとに各自の考えを出してもらいまとめたものです。それを実際に、それを引き出すためにはどのようにしたらよいかを考えてもらう資料として作成したものです。